

# 山口県人口ビジョン（案）

（概要版）



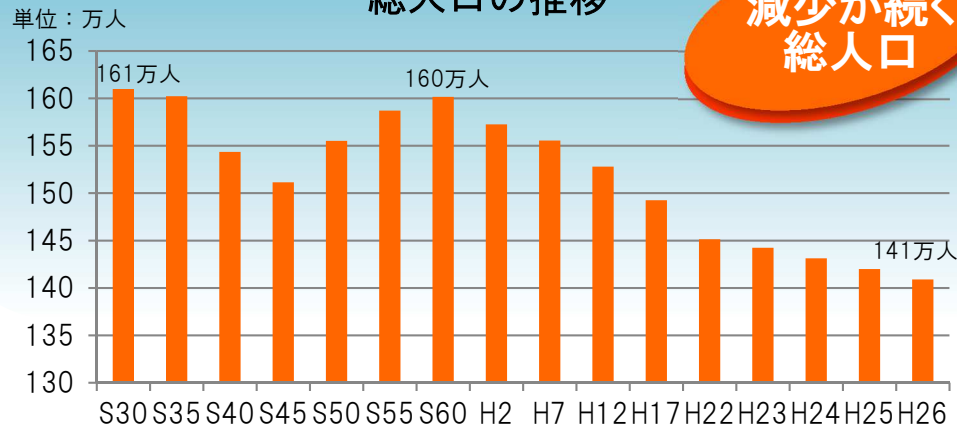
平成27年9月

山口県

# I 人口の現状分析

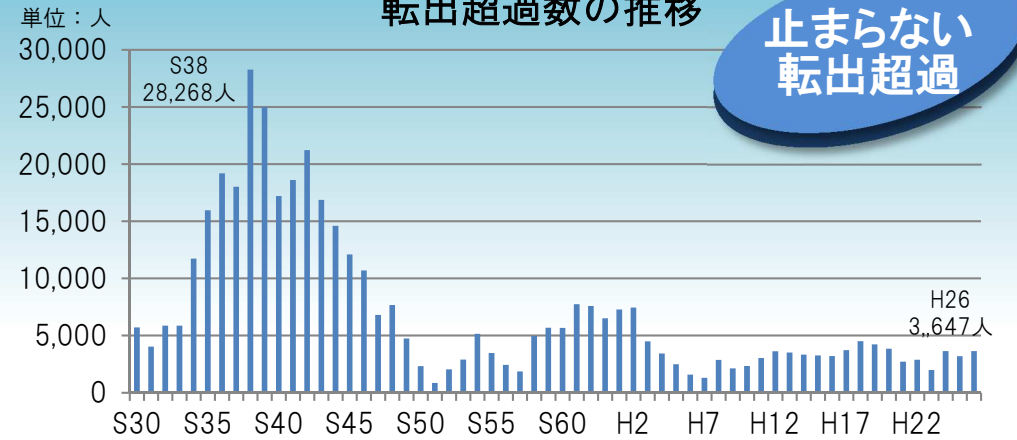
## 総人口の推移

減少が続く  
総人口



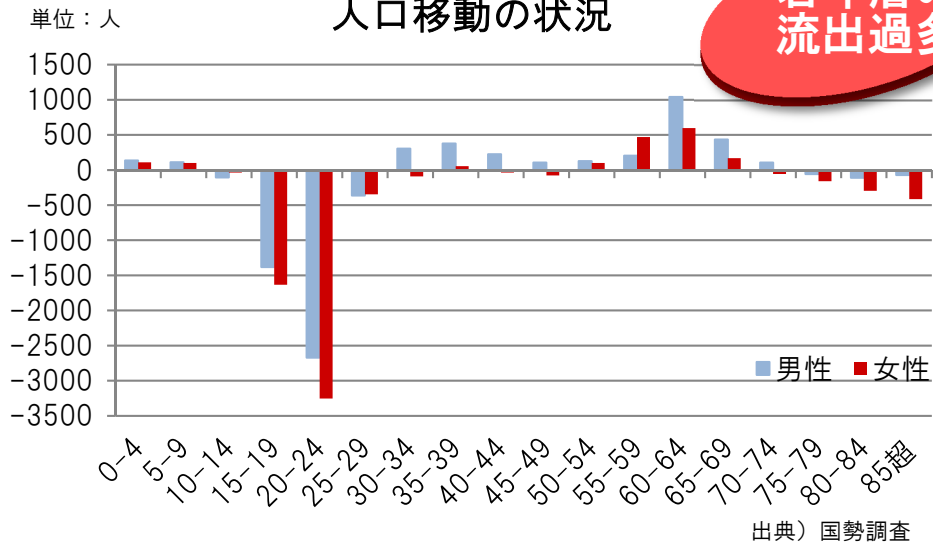
## 転出超過数の推移

止まらない  
転出超過



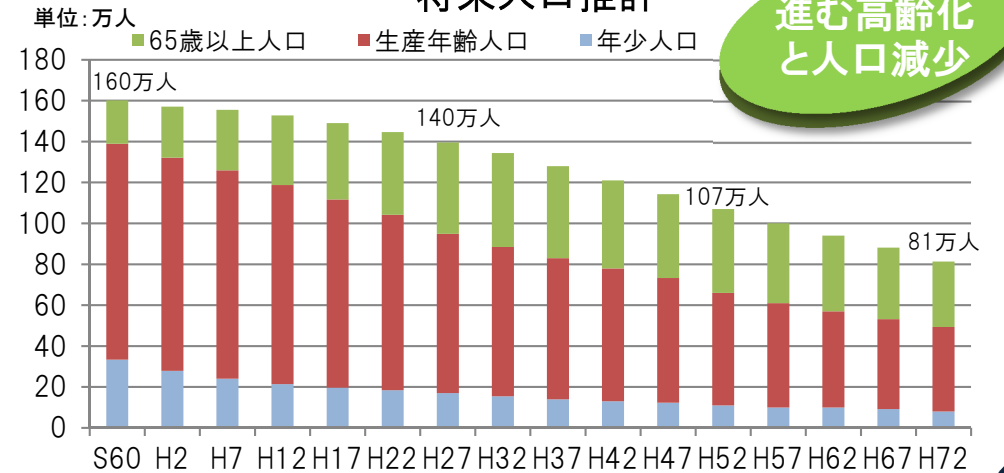
## 人口移動の状況

若年層の  
流出過多



## 将来人口推計

進む高齢化  
と人口減少

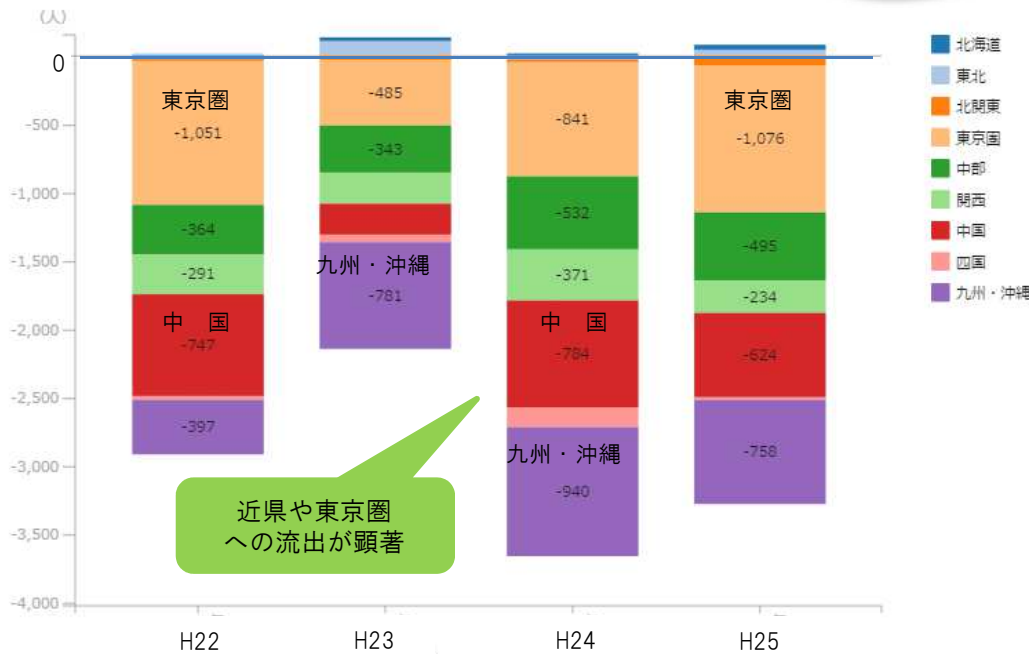


出典) 将来人口推計 (国立社会保障・人口問題研究所)

# I 人口の現状分析

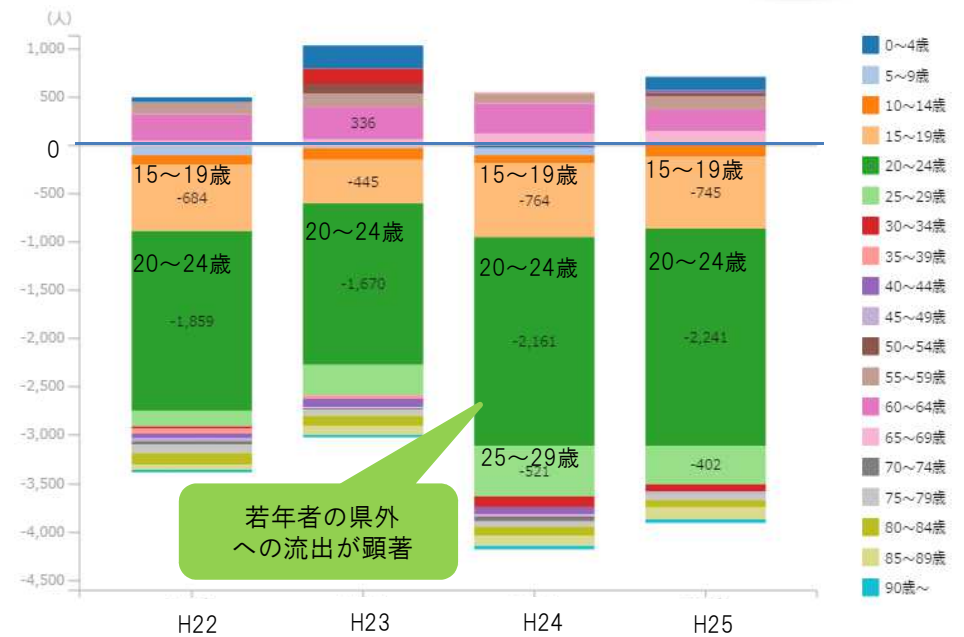
地域ブロック別純移動数  
(RESASにより分析)

近県や  
東京圏への  
人口流出



年齢階級別純移動数  
(RESASにより分析)

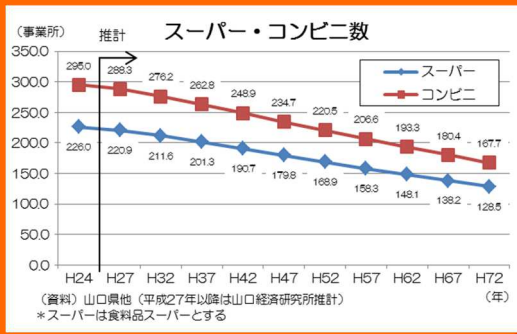
若年層の  
流出過多



総合戦略における人口減少対策へ分析結果を反映  
(例：東京圏・近県におけるUJ1ターン就職説明会の開催など)

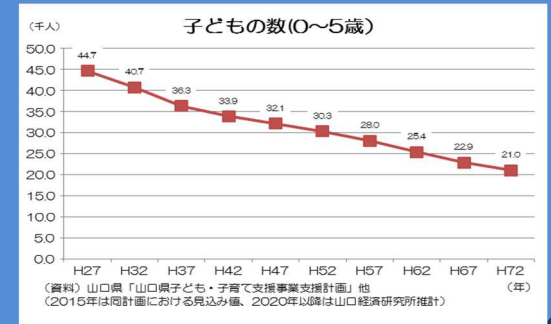
## Ⅱ 人口の変化が地域の将来に与える影響

- 店舗等の撤退による買物が困難な住民の増加
- 空き家数の増加による倒壊の危険や景観の悪化
- 生活路線の運賃の値上げ、減便、廃線 など



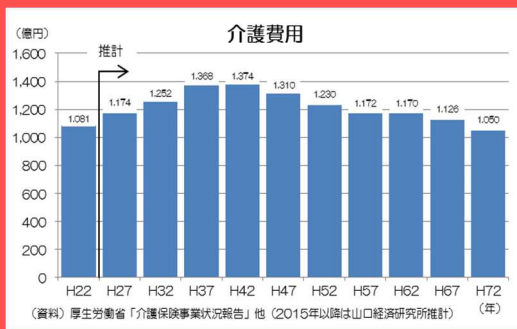
### 生活への影響

- 子ども関連施設の減少による利便性の低下
- 人口減少に伴い活力ある教育活動が困難となる懸念
- 学校の統廃合に伴う通学負担の増加 など



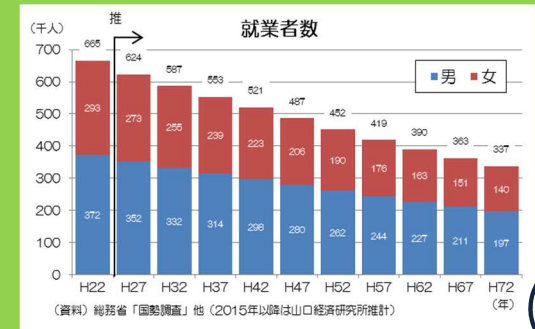
### 子育てへの影響

- 健康保険料の負担増
- 介護保険料の負担増
- 医療・介護人材の不足 など



### 社会保障への影響

- 人口の減少に伴う事業規模や就業人口の減少
- 介護や建設業の人材不足による安心・安全性の低下
- 税収の減少に伴う厳しい財政運営 など



### 産業への影響

## Ⅲ－１ 将来の展望に必要な調査・分析

### 子育て支援・少子化対策に関する意識調査

#### 【主な分析結果】

- 既婚者が考える理想の子どもの数を持っていない
- 養育費や出産・育児への負担が課題
- 結婚希望者は多いが、30歳未満での結婚希望は多くない
- 結婚する相手との出会いや経済力が課題

### 東京在住者の今後の移住に関する意向調査

#### 【主な分析結果】

- 約4割の人が今後地方に移住する予定又は検討したいと回答
- 移住する上で、仕事や生活の利便性などに不安を抱えている
- 移住を考える上で、生活コストや利便性などを重視
- 移住に関する情報を求める声が多い

### 県内大学生・高校生等の就職意識等調査

#### 【主な分析結果】

- 卒業後、県内よりも県外に出たいと答えた割合の方が高い
- 街の活気や生活の利便性、希望する就職先や就学先が課題
- 山口県に就職・進学したい学生は概ね3～4割程度
- 地元や希望する就職先・進学先の地域に住みたい人が多い

#### 【課題】

若い世代の結婚や子育ての希望を実現する施策の充実

課題の克服

#### 【課題】

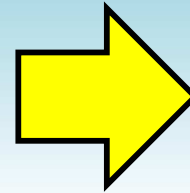
若年層の県外流出の縮減と県内回帰の実現に向けた施策の充実

活力ある住みよい地域社会の実現

## Ⅲ－２ 目指すべき将来の方向

### 課題

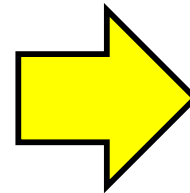
若年層の県外流出の縮減と  
県内回帰の実現



社会減の流れを  
断ち切る！



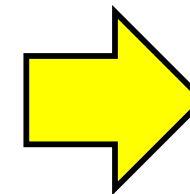
若い世代の結婚や子育ての  
希望の実現



少子化の流れを  
変える！



人口減少・高齢化社会でも  
持続可能な効率的な社会シ  
ステムの再構築



住みよい  
地域社会を  
創る！



### Ⅲ－３ 人口の将来展望

- 本県では、今後、次のことを目指した施策を展開していく
  - ・平成37年（2025年） 人口の流出と流入の均衡を実現
  - ・平成42年（2030年） 本県の希望出生率（1.9）を実現
  - ・平成52年（2040年） 人口置換水準の出生率（2.07）を実現
- これらが実現されれば、
  - ・平成72年（2060年） 人口は100万人程度の水準に維持されることが可能
- この状況が持続されれば、将来、人口が安定的に推移することが見込まれる

単位：人

